

令和4年度の取り組み

1 経過

令和4年2月の札幌圏を中心とした大雪による輸送障害について、各機関が行った対応策等を検証し、課題を明らかにした上で、改善策など、今後の取り組み等について協議・検討を実施。

2 検証内容

大雪による輸送障害（札幌－新千歳空港間）によって、JRの運休に伴う各関係機関等との連絡体制や情報共有、代替輸送の確保などの対策が課題となった。

(1) 輸送障害の状況等

- ・ 令和4年2月 6日～13日 JR計 3,525本運休/利用者 約56万人に影響
- ・ 令和4年2月21日～27日 // 3,559本運休/ // 約47万人に影響

(2) 課題等

JR復旧作業に係る 応援・受援等	・ 作業員及び除雪機械等の体制強化など
バス路線の運行継続	・ 道路の狭隘化でバス運行が不能、運休・遅延が多発 ・ 運行状況等に関して利用者への周知が課題
代替輸送の確保	・ 高速道路や主要幹線道路などの除雪状況の把握等 ・ 空港連絡バス等の対応等

3 検証結果

(1) 今後取り組む事項

- ・ JR北海道における除雪体制の強化及び受援体制の構築として、記録的な大雪等に備え、除排雪機械等の増強や自社・グループ会社等、応援体制の強化。
- ・ 公共交通利用者に対する情報の周知として、「北海道旅の安全情報サイト」、外国人観光客等に対する災害情報伝達システム等を活用した運行情報発信。
- ・ 「札幌－新千歳空港」間における代替輸送の確保に向けて、JR運休状況や高速道路・主要幹線の除雪状況に応じ、代替輸送バスの確保やタクシー営業区域外輸送の実施など、代替輸送手段の円滑な確保に向けた体制を構築。

(2) 検証結果の報告等

情報共有・対応強化WGにおいて検証を行い、検証結果を雪害対策連絡部会議へ報告。北海道防災会議幹事会での協議を経て北海道防災会議へ報告。

令和5年度の取り組み

1 令和4年度冬季間における輸送障害等の検証

令和4年2月の輸送障害における検討結果を踏まえ、雪害による大規模障害が発生した場合の対応策の検証として、令和4年度冬期間（R4.11～R5.3）の輸送障害への対応など、道が発令したレベル宣言の検証についてWG担当者会議で検討。

(1) レベル宣言の状況

- ◇ レベル宣言回数：計10回（延日数30日間）
（警報発令2回、JR計画運休3回、空港連絡バス運休3回など）

(2) 検討事項

- ・ 輸送障害対策で、「情報共有」と「情報発信」の更なる検討が必要
- ・ レベル宣言の基準について再検討が必要（運輸局との調整要）

2 検証結果

【ワーキンググループでの主な意見等(WG担当者会議:6回開催)】

- ① インバウンドの増加や、高者などのスマホ非対応者に対する周知の強化、SNS等のプッシュ型通知の受け入れなど、情報発信媒体として公共施設などを活用した周知の手法などの検討が必要。
- ② JRの計画運休は見込み段階から関係者間で情報共有が図られ、混乱等が生じなかった。今後はバス運行等の対応策等の検討が必要。

【公共交通利用者に対する情報の周知等】

- ・ 「北海道旅の安全情報サイト」の活用等、交通情報の周知を図る。

3 今後の進め方

- ① 雪害時における情報発信について、観光客や外国人へ情報が確実に伝わるよう、発信力の強化に向けて、今後、公共施設を活用した周知やマスコミからの協力など、情報発信媒体の更なる周知体制等の構築に向けた検討を進める。
- ② 情報共有のあり方として、道から関係機関へのメールの共有については、頻度や方法について、出来るだけ煩雑とされない方法を模索すべきとの意見から、メールでの共有の簡略化や見込み情報も含め、今後の対応について検討を進める。
- ③ レベル宣言の基準について、運輸局と道庁のレベル発動と多少差が生じているとの意見から、今後、輸送障害の取扱いやレベル基準の見直しについて、運輸局との協議・検討を進める。